



お知らせ

女性医療人キャリア支援センターは、この度厚生労働省 令和4年度 子育て世代の医療職支援事業に採択されました。この事業は子育て中の医師が希望に応じて就業継続・復職が可能な環境の整備を進め、全国へ子育て世代の医療職の支援を普及させることを、目的としたものです。

活動報告

①

医学部4年 臨床実習総合医学 「医師のキャリアとワークライフバランスを考える」が開催されました

今年度で7年目となる医学科4年次対象の「臨床実習入門総合医学『医師のキャリアとワークライフバランスを考える』」が、令和4年11月15日(火)、臨床中会議室および校舎講義棟1階チュートリアル室にて行われました。この授業は、医師としてのキャリア継続のため、ワークライフバランスの考え方を知るとともに、医師としての多様な生き方があることを学ぶことを目的としており、先輩医師からの体験談やアドバイスを聞くキャリア講義と、グループワークで形成されています。

開始にあたり、女性医療人キャリア支援センター長 松浦 恵子先生(医学生物学講座)、医学教育センター 山本 恭子先生(総合内科・総合診療科)から本日の授業、事前アンケートについて説明がありました。

その後、場所をチュートリアル室に移動、12のグループに分かれ、それぞれに指定されたキーワードから起こりうる問題とその解決策について討論を行い、シナリオを作成しました。

討論終了後は再び臨床中講義室へ移動し、5人の先輩医師によるキャリア講義、午前中のグループ討論で作成したシナリオの発表が行われました。



説明をする松浦先生、山本先生



説明を聞く学生

当日の授業スケジュール

当日は以下のスケジュールで進められました

時間	内容	担当
	臨床中講義室に集合	
9:45~	講義説明、アンケート	医学生物学 松浦 恵子 先生 医学教育センター 山本 恭子 先生
	校舎講義棟1階チュートリアル室へ移動	
10:00~	グループ討論 12グループ(8~9人毎)に分かれグループごとにキーワードを基にシナリオを作成し、問題点や解決策について討論する。	
	臨床講義棟中講義室へ移動	
11:20~	キャリア教育①	血液内科 高野 久仁子 先生
11:40~	ワークライフバランス ミニ講座	腎臓内科 中田 健 先生
12:00	休憩	
13:00~	キャリア教育②	高度救命救急センター 安部 隆三 先生
13:20~	キャリア教育③④	消化器外科 遠藤 裕一 先生 消化器内科 遠藤 美月 先生
14:00~	キャリア教育⑤	循環器内科 米津 圭佑 先生
14:25~	発表会 午前中作成したシナリオと解決策をロールプレイまたは代表者が発表。 発表時間3分	進行 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 立山 香織 先生
15:30~	講評・総括	松浦 恵子 先生 中川 幹子 先生 山本 恭子 先生 中田 健 先生
16:00	終了	

指定されたキーワードの一例

テーマ:ワークライフバランス

キーワード1

研修医の時に結婚・出産した若い医師夫婦

キーワード2

一般企業に勤める夫と結婚した女性医師。
育休から復帰した。

テーマ:家族の急病

キーワード3

夫が講演会、当直、学会、研修医との飲み会等で連日不在。
子供は1歳と3歳、妻はくたくた

キーワード4

夫婦共働き、2歳の子供の朝に急な発熱。
二人共県外出身で親に頼れない

テーマ:キャリア継続、留学、転勤

キーワード5

若い医師夫婦。夫が米国留学を希望

キーワード6

妻が上司から海外留学を勧められた



指定されたキーワードから問題と解決策について討論する学生

キャリア教育でお話いただいた先生方

グループ討論終了後、臨床中講義室にて、先輩医師 5 名によるキャリア講義が行われました。

『ママさん医師になって気づいたこと』 高野 久仁子 医師（血液内科）

最初に登場いただいたのは、高野久仁子先生（血液内科）です。自分の歩んできた道を先輩の一例として参考にしてもらえたら、進路を決める時や結婚後、そしてママさん医師となってからのキャリア形成について、どのように取り組まれたかなどを、ご自身の体験をもとにお話してくださいました。

ママさん医師になってから「ママさんも個々の事情は違う。仕事へのスタンスも違っていい。」と思うようになったそうです。

また職場内での多様性についても触れ、「職場には様々な人がいる。固定観念で相手の立場を決めつけずに、そのために職場でコミュニケーションをとることが大切であり、お互いを尊重し合えるような仲間と働いていくことがベストだと思います。」と話されました。



『救急医という選択について』 安部 隆三 教授（高度救命救急センター長）

キャリア講義 2 人目は、今年度から本学に来られた高度救命救急センター 安部 隆三センター長です。

「診療科の選択」「救急・集中治療のやりがい」「留学」「救急科の働き方改革」についてお話くださいました。

「診療科の選択」「留学」については、ご自身の体験談を交えてお話しされ、「留学はメリットになることが多く、人生のどこかのタイミングで是非行ってもらいたい」そうです。

「救急・集中治療のやりがい」では、生命危機に瀕した患者を救命するという目標に向け、病院前診療、ER・ICU での治療、リハビリを行い退院に至るまでの連鎖がどこかで途切れないよう、それぞれの質を向上させていく取組を行っていくことがこの救急医療・集中治療のやりがいであること、「救急科の働き方改革」については、前職で実施した労働改革についての成果と今後の課題についてお話されました。



『医師夫婦のワークライフバランス』 遠藤 裕一 医師（消化器・小児外科） 遠藤 美月 医師（消化器内科）

昨年に続き、医師同士の夫婦による講義。今回は、遠藤 裕一先生（消化器・小児外科）と遠藤 美月先生（消化器内科）ご夫婦に登場いただきました。

大学の同級生というお二人からは、自己紹介、医師としてのキャリア、所属する診療科の紹介、専門医制度、職場環境などについてお話しいただきました。

遠藤裕一先生からは、医師としてのキャリアと外科医の家庭への貢献度について、医局内で実施したアンケートが紹介され、医師同士の夫婦と医師同士ではない夫婦との結果の違いや、医師同士の夫婦では子育て・育児は平等、家事は折半など理解と行動力が不可欠になるとの話がありました。

遠藤美月先生からは、買い物の宅配利用、家族での役割分担などの家事における工夫や、ご協力いただいているご主人の実家には、常に感謝の気持ちと「ほう・れん・そう」を常に心がけているそうです。近くに頼る親などがいない場合は公的支援や病児保育、学童育成クラブなどの利用を考えていいのでは、とのアドバイスもありました。

「女性医師の仕事継続には家庭環境が大きくかかわってくる。ただ子供が大きくなれば仕事の比率も高くなるなど状況は常に変化しているので、変化していく環境に応じて仕事の量や内容を変えていけばいいように思う。その時に一番いいと思う選択をして、選んだからにはベストを尽くすことが大切。ただ、その後も一本道ではないので、その時のベストなところを選び、そこからまた選択していけばいいと思います。」とまとめられました。



『地域での勤務と育休』 米津 圭佑 医師（循環器内科）

5 人目は米津 圭佑先生（循環器内科）です。研修医の時代を経て 9 年目までは県内（北部・南部）の地域中核医療機関 3 件と母校で勤務し、10 年目から本学で勤務をされています。地域中核病院での勤務ではガイドライン、指南書をしっかり読んで実践し、週末には勉強会にも積極的に参加するなど仕事をしっかり行いながら趣味も満喫するなど、オンオフの切り替えもしっかりできたそうです。

また昨年 2 児（双子）のパパとなった米津先生は、男性医師で、本学初の 1 ヶ月の育休を取得されました。1 か月の育休をどのように過ごしたか、育休を取得してからの意識の変化や、取得のメリット・デメリットを話し、「育休は休暇ではなく育勤（育児勤務）」だと実感したそうです。奥様からは「1 か月の最後の週に抱っこなどやっと慣れてきた印象。育休を取らなかったらオムツ替えや抱っこの仕方、あやし方もわからなかったと思う。（育休は）絶対にとってもらった方がいい。」とのコメントがありました。さらに 1 年が経過し成長したお子様の様子を動画を交えて紹介されました。

最後に「学生生活をもっと楽しんでください」「今後もっと育休が取りやすくなるように我々も頑張ります」とのメッセージをいただきました。



ワークライフバランスミニ講座

女性医療人キャリア支援センター副センター長 中田 健先生（腎臓内科）の「ワークライフバランスミニ講座」では、まず過度の残業や連続勤務が過労死や医療事故につながった事例や、アメリカでは、研修医の過労による医療ミスをきっかけに 20 時間を超える連続勤務の禁止、勤務時間を週 80 時間以内とするなどの取組が徹底されていることが紹介されました。

次に 2024 年からの時間外労働規制や看護師特定行為など大きく変わろうとしている医師の働き方について触れ、「自分が患者や患者の家族になった時、元氣な医師と当直続きでクタクタの医師どちらに診てもらいたいかを考えたときどうか。単に頑張るだけでなくコンディションを整えることも大事ではないか。」との話がありました。

最後に「ワークライフバランスを重視しなくてはならないのは、自分自身を守るためでもあり、患者自身を守るために必要なこと。そのためにも学校行事や子供の病気など素直に言える職場づくりは大事だと思う」と話しました。



講義を行う中田副センター長

グループ討論、発表

【グループ討論】

学生は校舎講義棟の1階チュートリアル室に移動。予め振り分けられていた12のグループに分かれ、グループ毎に提示されたキーワードを基に決められた時間内で、問題点やその解決策について討論を行い、その内容からシナリオを作成しました。またシナリオの発表方法について、グループ全員によるロールプレイまたはグループ代表者による発表のどちらかを選択しました。

【発表会】

午前中のグループ討論で作成したシナリオを各グループ発表します。

女性医療人キャリア支援センター副センター長 立山 香織先生（耳鼻咽喉科・頭頸部外科）の進行により、事前に選択した全員参加のロールプレイもしくは代表者による発表のいずれかでシナリオを披露しました。ロールプレイでは、グループ全員が主人公、妻（夫）、子供、姑、先輩、上司など様々な役割を担当し、中には人気アニメを彷彿させるものなど、熱演が繰り広げられました。



室内のホワイトボードを活用して



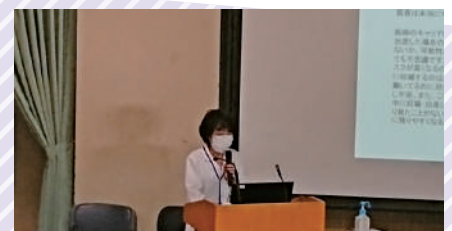
ロールプレイでの発表の様子



講評、総括

グループ発表後の講評では、先生方から「短時間勤務の医師の存在はとても助かっている」「病児保育、学童保育、家事代行サービス、生協の食材の配達など育児支援サービスはとても発達しているので、そういう情報を早めにGETしておく、子供の発熱など急なイベントがあったときにスムーズに対応できるのでそのような準備が必要。」「家事代行サービスや預かりの場合、必ず関係性がうまくいくとは限らない。」「研修医の時に結婚した若い夫婦という事例で、研修猶予期間の休みの取り方で今までにない取り方を提案していたケースがあり、なるほどと思った」などの意見がありました。

松浦センター長より午前中に提出されたアンケートの結果をスライドで発表され、1年次に同じ質問に答えた際の回答との比較は、学生たちも興味深そうでした。現時点での希望する進路について臨床医がやはり多いが、基礎研究医を挙げる人も増えていたそうです。また、5月から6月にかけて行い、学内及び県内外の824名の医師から回答を得た「医師の働き方等に関する意識調査」についても発表されました。



講評を行う松浦センター長



事前アンケートの集計を発表

第8回パパの会Penguinsが開催されました

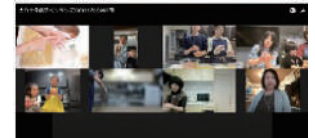
第8回男性医療人パパの会 Penguins が3月11日（土）にオンライン開催されました。今回は、オンライン育休パパ座談会&料理教室です。

最近男性育休を取得された吉永和弘医師、首藤久之医師、青木貴紀医師の3名の男性医師に登場いただき、育休取得を決めた理由や周りの反応、取得して感じたことなどをお聞きしました。3名の先生からは、育休取得を考えたのは、奥様の出産後、協力が必要と考えたこと、育休期間は、子供としっかり向き合える大変貴重な時間だったこと、職場では、上司や先輩の理解もあり、アドバイスやフォローもいただいたが、その一方で、育休申請の期限や外勤先との調整で苦労したとの声もあり、今後に向けた課題も感じられました。

座談会後の料理教室では家庭のキッチンから、楽しく料理をする7組の家族の姿を見られました。講師は料理研究家のタッキー先生こと滝村雅治氏です。メニューは「チーズハンバーグと簡単ミニサラダ」です。わかりやすいタッキー先生の指導の下、家族みんなで協力してハンバーグを完成させました。



育休を取得した男性医師に、登場いただきお話を伺いました。



ハンバーグづくり
みんなでコネコネしています



大分県医師キャリアサポートブック令和4年度版を作成しました

女性医療人キャリア支援センターでは、大分県医師会男女共同参画委員会の協力のもと、県内医療機関の女性医師の働き方、大分大学医学部附属病院各診療科の復帰支援をパンフレットにまとめた大分県医師キャリアサポートブックの令和4年度版を作成しました。

この冊子は、子育て支援に加えて、地域医療での医師の働き方改革推進のための啓発活動、県外からの医師の誘致、女性医師支援、学生のキャリア支援等に役立てることを目的としており、令和元年度、令和2年度と発行してきました。さらなる充実化を目指し令和4年度版を作成いたしました。掲載医療機関は令和2年度版より4医療機関、2診療科増加し、54医療機関、20診療科を掲載しています。

今回は大分市、別府市の6医療機関から提出いただいた育児等から復帰する女性医師に向けた復帰支援プログラムを掲載しています。



県内病院、附属病院診療科
一部医療機関の復帰支援プログラムも掲載



妊娠中の女性医療人の方へ

マタニティ白衣・スクラブ&パンツの貸出サービスを行っています

女性医療人キャリア支援センターでは、出産前の女性医療職の方に向けたマタニティ用白衣、スクラブとパンツの無料貸出サービスを行っています。妊娠初期から臨月まで対応しています。



マタニティ白衣

お腹が目立たないデザインです。
産休前の大きなお腹でもボタンが留められます!!



軽いストレッチ素材のスクラブとジョガーパンツは、お腹への負担が少なく、快適に着用できます。



スクラブ & パンツ

お申込み・お問い合わせは、
女性医療人キャリア支援センターまで。
事前に試着も可能です。お気軽にご連絡ください。